

第93期のご報告

小田急電鉄株式会社

# Investor Express

株主・投資家の皆さまへ

2013年4月1日から2014年3月31日まで



## Contents

- 1 株主・投資家の皆さまへ
  - 3 特集：下北沢地区上部利用の施設配置を公表
  - 4 クローズアップ小田急
  - 5 連結決算ハイライト
  - 7 事業別の概況
  - 9 連結財務諸表
  - 11 株主インフォメーション
  - 14 会社の概要
- 表紙 自然ふれあい歩道：  
鶴沼海岸駅～藤沢本町駅コース



株主・投資家の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は小田急グループに対するご愛顧を賜り、厚く御礼を申し上げます。

第93期の業績および当社グループにおける取組みにつきましてご報告申し上げます。

取締役社長 山木 利満



## 第93期(2013年4月1日～2014年3月31日)の業績について

当期の当社連結業績につきましては、各事業にわたり積極的な営業活動を行ったことに加え、景況感の改善による影響もあり、鉄道事業をはじめとした運輸業のほか、百貨店業やホテル業などにおいても業績が好調に推移いたしました。また、鉄道事業などでは、4月の消費増税を控えた駆け込み需要などの影響もあったことなどから増収増益となりました。これに伴い、

当期純利益につきましては250億4千8百万円となり、前期に続き、過去最高益を更新いたしております。

なお、株主配当につきましては、連結配当性向に基づく配当政策により1株につき8.0円(中間4円、期末4円)と、前期と比べ0.5円の増配といたしましたので、あわせてご報告申し上げます。

2014年度につきましては、運輸業や流通業などを中心に4月の消費増税に伴う消費マイナードの冷え込みによる影響などを織り込んでいることなどから減収減益を見込んでおりますが、当期純利益は243億円となる見通しです。

引き続きグループ事業ビジョン「Value Up 小田急」のもと、日本一暮らしやすい沿線の実現を目指して、沿線価値、企業価値の向上に努めてまいります。

## 下北沢地区の上部利用について

下北沢地区(代々木上原駅～梅ヶ丘駅間)では、当社と東京都が一体となって連続立体交差事業および複々線化事業を進めており、昨年3月に在来線を地下化したことで、この鉄道施設の跡地(※)に約27,500㎡の空間が創出されました。

昨年11月には、この鉄道施設の跡地利用について行政との協議が整ったことから、世田谷区内の施設配置(ゾーニング構想)等を公表いたしました。

このゾーニング構想は、街の個性・雰囲気や踏まえ、「街のにぎわいや回遊性、子育て世代が住める街、文化」をキーワードに、街にあら

たな魅力を創出することを目指しており、東北沢・下北沢・世田谷代田の3駅周辺を中心としたゾーンごとに特色を持たせるとともに、世田谷区が掲げる防災・減災の視点も重視した内容となっております。(詳細につきましては、3ページの特集をご覧ください。)

今後につきましては、連続立体交差事業および複々線化事業の進捗にあわせて計画を進めることとなります。引き続き行政との連携を図り、魅力ある街づくりを目指してまいりますので、皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

※連続立体交差事業および複々線化事業に伴う世田谷区・渋谷区内の土地

# 下北沢地区上部利用の施設配置<sup>(※)</sup> (ゾーニング構想)を公表

※世田谷区域内

「街のにぎわいや回遊性、子育て世代が住める街、文化」をキーワードに、全体を「文化発信ゾーン」「シモキタショッピングゾーン」「世田谷ライフ発信ゾーン」の3ゾーンに分け、ゾーンごとに設定したテーマに基づき、魅力ある街づくりを進めます。

- 1 文化発信ゾーン(東北沢駅周辺地区)**  
既存の街の個性・雰囲気と融合する上質なライフスタイルを意識した施設を配置します。新たな生活文化を発信し、街の魅力を高めてまいります。
- 2 シモキタショッピングゾーン(下北沢駅周辺地区)**  
今後整備される下北沢駅と駅前広場との連続性や、駅からの回遊性を高める多様な店舗を展開し、街に広がりを持たせます。
- 3 世田谷ライフ発信ゾーン(世田谷代田駅周辺地区)**  
緑と環境をキーワードに、子育て世代をはじめ多世代に支持される上質な住まい等を配置します。

## シモキタ・スタイル

街の将来を見据え、防災・環境への配慮をしながら、

○ 「街のにぎわいや回遊性、子育て世代が住める街、文化」をキーワードに魅力ある街づくりをめざします。

世田谷区域内の上部利用イメージ

※現時点での整備イメージであり、今後の調整により変更となる可能性があります。また、周辺の建物についてはイメージであり、必ずしも現況と一致しているものではありません。





# Close Up ODAKYU

## クローズアップ小田急

小田急グループの主な出来事をご紹介します

### シニア向け住宅事業の拡充

#### ●サービス付き高齢者向け住宅

経堂、成城学園前に開業を予定している2物件とも駅から徒歩圏内にあり、周辺には商業施設等が集積した利便性の高い環境のもと、充実したシニアライフをお楽しみいただけます。

安心してお住まいいただけるよう、バリアフリー構造の採用や共用部への介護浴室等の設置のほか、安否確認、生活相談サービスについては、(株)小田急ライフアソシエのスタッフが24時間常駐してサポートいたします。

#### ●介護付有料老人ホーム「くらし小田急祖師谷」

当社と(株)ベネッセスタイルケアは、祖師ヶ谷大蔵に介護付有料老人ホーム「くらし小田急祖師谷」をオープンします。(運営は(株)ベネッセスタイルケアが担います。)

当該物件のオープンや世田谷エリアにおける(株)ベネッセスタイルケアとの業務提携により、沿線にお住まいの方の介護付有料老人ホームへの入居ニーズや、将来的にサービス付き高齢者向け住宅に入居いただく方の住み替えニーズに対応いたします。



経堂  
開業予定：2014年11月  
戸数：40戸  
居室面積：約25㎡



成城学園前  
開業予定：2015年1月  
戸数：30戸  
居室面積：約35㎡



「くらし小田急祖師谷」  
開業予定：2015年1月  
戸数：56戸  
居室面積：約17㎡

### 生活支援サービス 「小田急くらしサポート®」 スタート



2014年4月から世田谷エリアにて、お客さまの生活上のお困りごとを受け付けるコールセンターを開設し、ご要望に応じた商品やサービスを紹介する生活支援サービス「小田急くらしサポート®」を開始しました。

Odakyu OXの電話宅配サービスや家事のお手伝い、ご自宅のメンテナンスなど、暮らし全般に関わるサービスを電話1本で承り、小田急グループをはじめとするサービス提供会社へ無料でお取り次ぎするほか、スタッフがサービス提供会社とともにご自宅にお伺いし直接ご相談をお受けします。

(ハローオダキュウオダキュウ)

電話番号：0120-860909

営業時間：10：00～17：00 (元日除く)

### 「小田急本厚木 ミロードイースト」オープン

～居心地がよく開放的で一体感のあるエリアに～

2014年5月、本厚木駅直結の商業施設「小田急本厚木ミロードイースト」がオープンいたしました。小田急沿線や神奈川県中央区初出店を含む28店舗により本厚木がますます便利になります。



# 連結決算ハイライト

## 2013年度 連結決算の概要

当社グループでは各事業にわたり積極的な営業活動を行った結果、営業収益は5,231億8千7百万円と、前連結会計年度に比べ79億6千3百万円の増加(前期比1.5%増)となりました。

これに伴い、営業利益は493億7千7百万円と、前連結会計年度に比べ52億5千7百万円の増加(前期比11.9%増)となったほか、経常利益につきましても420億6千1百万円と、前連結会計年度に比べ56億9千5百万円の増加(前期比15.7%増)となりました。また、当期純利益は250億4千8百万円と、前連結会計年度に比べ53億7千3百万円の増加(前期比27.3%増)となりました。

(単位:百万円)	2013年度	2012年度	増減額	増減率
営業収益	523,187	515,223	7,963	1.5%
営業利益	49,377	44,119	5,257	11.9%
経常利益	42,061	36,365	5,695	15.7%
当期純利益	25,048	19,674	5,373	27.3%

## セグメント別の概況

<b>運輸業</b> 売上高構成比 <b>32.4%</b>	<b>営業収益</b> <b>172,698</b> 百万円 (前期比 1.8%増)	<b>営業利益</b> <b>28,308</b> 百万円 (前期比 7.0%増)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鉄道事業で定期・定期外ともに輸送人員が増加したほか、バス業や箱根工リアの各社も好調に推移しました。加えて、消費増税に伴う定期券等の先買いの影響などから増収増益となりました。</li> </ul>
<b>流通業</b> 売上高構成比 <b>42.5%</b>	<b>営業収益</b> <b>225,171</b> 百万円 (前期比 0.7%増)	<b>営業利益</b> <b>3,670</b> 百万円 (前期比 3.7%減)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ストア業等でホームセンターが減収となったものの、「Odakyu OX」の新店開業や既存店の売上回復に加え、百貨店業で新宿店が好調に推移したことなどから増収となりました。一方、営業利益は百貨店業での費用増加などにより減益となりました。</li> </ul>
<b>不動産業</b> 売上高構成比 <b>11.3%</b>	<b>営業収益</b> <b>64,466</b> 百万円 (前期比 6.1%増)	<b>営業利益</b> <b>12,520</b> 百万円 (前期比 20.7%増)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 不動産分譲業で住宅販売が堅調に推移し、販売戸数が増加したことなどから増収増益となりました。</li> </ul>
<b>その他の事業</b> 売上高構成比 <b>13.8%</b>	<b>営業収益</b> <b>95,875</b> 百万円 (前期比 0.4%減)	<b>営業利益</b> <b>4,706</b> 百万円 (前期比 42.3%増)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ホテル業では宿泊部門を中心に好調に推移したものの、旅行業やビル管理・メンテナンス業などが減収となったことなどから全体では減収となりました。一方、営業利益はホテル業での減価償却費の減少などにより増益となりました。</li> </ul>

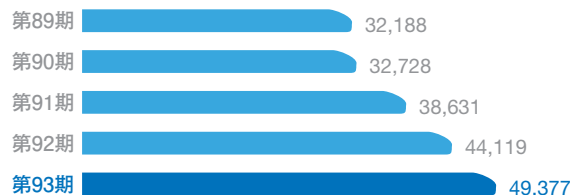
※売上高構成比は外部顧客に対する売上高に基づき算出しています。

## 連結業績の推移

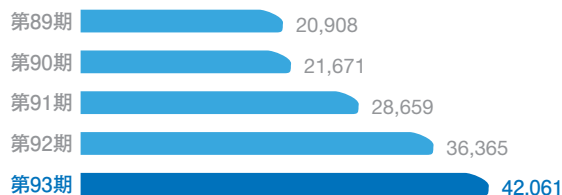
### □ 営業収益 (単位: 百万円)



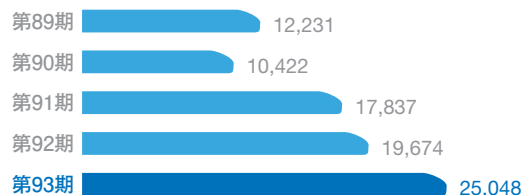
### □ 営業利益 (単位: 百万円)



### □ 経常利益 (単位: 百万円)



### □ 当期純利益 (単位: 百万円)



## 2014年度の見通し

4月の消費増税に伴う消費マインドの冷え込みによる影響が懸念されるなど、先行きは不透明な事業環境であると考えております。このような認識のもと、当社の連結業績予想については、消費増税の影響等により運輸業、流通業で減収を見込むことに加え、不動産業で住宅販売戸数の減少などを見込むことなどから、営業収益は5,153億円(前期比1.5%減)を見込んでおります。

営業利益では、全てのセグメントで減益を見込むことから、全体では439億円(前期比11.1%減)、経常利益につきましても358億円(前期比14.9%減)を見込んでおり、当期純利益につきましても、243億円(前期比3.0%減)を見込んでおります。

営業収益	<b>515,300</b> 百万円	前期比 1.5%減
営業利益	<b>43,900</b> 百万円	前期比 11.1%減
経常利益	<b>35,800</b> 百万円	前期比 14.9%減
当期純利益	<b>24,300</b> 百万円	前期比 3.0%減

※上記の見通しは、4月の決算発表時点で得られた情報に基づいて算定しております。従って、実際の業績は状況の変化などにより、記載の予想とは異なる場合があります。

# 運輸業



鉄道事業では、輸送面における最重要課題である当社線近郊区間の複々線化の早期完成に向け、工事中区間の東北沢～世田谷代田間において、昨年3月の地下化以降進めてきた地上の旧鉄道施設の撤去工事が概ね完了したほか、緩行線トンネル構築に向けた下北沢駅周辺での掘削工事に着手するなど、鋭意工事の進捗を図りました。また、近郊区間の各駅停車10両編成化計画に基づくホーム延伸工事を推進し、本年3月のダイヤ改正より、多摩線内において一部の各駅停車が10両編成での運転を開始いたしました。営業面においては、テレビコマーシャルやウェブサイトを活用した宣伝展開により、ロマンスカーの利用促進や箱根地区への旅客誘致を図ったほか、富士山の世界文化遺産登録を記念した企画を実施するなど、輸送需要の面でも喚起を図りました。施設面においては、行先案内表示装置の全駅設置に向けた工事やホーム上家増設工事を進め、駅施設の充実を図ったほか、全駅での公衆無線LANサービスの開始や箱根地区までを一体に捉えた駅ナンバリングの導入などにより、利便性の更なる向上に努めました。

自動車運送事業では、環境に配慮した新型車両の導入を積極的に進め、排出ガスの低公害化や輸送サービスの向上を図りました。また、小田急バス(株)が登戸営業所開設に伴いダイヤ改正を実施したほか、小田急箱根高速バス(株)が箱根線の早朝・深夜便を拡充するなど、各社でお客さまのニーズを捉えた諸施策を実施し、利便性の向上に努めました。

# 流通業



百貨店業では、(株)小田急百貨店において、グループをあげたインバウンド施策の一環として「小田急スーパーニアショップ」を新宿店に期間限定で開設するなど、増加する外国人旅行客の需要喚起を図りました。また、オンラインショッピングサイトの特性を活かした独自性の高い品揃えを実現することで、幅広い顧客へのアプローチに努めたほか、各店で地域物産展などの各種営業施策を積極的に展開するなど、収益の向上に努めました。さらに、かねてより進めてきた新宿店における空調用熱源設備や町田店におけるエスカレーターの更新工事が完了するなど、施設の充実を図りました。



「Odakyu OX 小田原店」

ストア業等では、小田急商事(株)において、創業50周年を記念したイベントを開催し、運営する各業態の店舗活性化を通じた顧客の維持・獲得に努めました。また、スーパーマーケット「Odakyu OX」の小田原店、相武台店が新規開業するなど、事業基盤の拡充を図るとともに、商品宅配サービスの受付時間延長や対象エリア拡大を実施し、利便性向上に努めました。



# 不動産業



不動産分譲業では、小田急不動産(株)において、「リーフィア町田小山ヶ丘」や「リーフィア世田谷梅丘」などの戸建住宅のほか、「リーフィアレジデンス麻生片平」やグッドデザイン賞を受賞した「リーフィアレジデンス等々力」をはじめとするマンションを分譲するなど、積極的な営業活動を実施いたしました。

不動産賃貸業では、当社において、相武台前駅北口に直結する商業施設「小田急マルシェ相武台」が昨年7月に開業したほか、海老名駅東口に直結する複合施設(仮称)小田急海老名駅東口ビル」の建設工事に鋭意取り組みました。また、本年5月の開業に向け本厚木ミロード中央館から東口商店街にかけてのリニューアル工事の進捗を図るなど、施設の充実および活性化を図る施策を推進いたしました。



「小田急マルシェ相武台」

# その他の事業



ホテル業では、(株)ホテル小田急が運営する「ハイアット リージェンシー 東京」において、訪日外国人客の増加や国内旅行需要の高まりを背景に、主に個人利用客の取込みに注力することで、安定した客室稼働



「小田急 箱根ハイランドホテル」新館

率と収益の確保に努めました。また、(株)小田急リゾートが運営する「小田急 箱根ハイランドホテル」では、新館「森のレジデンス」が完成し、本館改修工事も完了したことで、本年3月にグランドオープンを迎えたほか、(株)ホテル小田急サザンタワーが運営する「小田急ホテルセンチュリーサザンタワー」において、客室のリニューアル工事を引き続き推進するなど、施設の魅力向上に努めました。

レストラン飲食業では、(株)小田急レストランシステムおよびジローレストランシステム(株)において、新規業態の開発とあわせ、両社で17店舗の新規出店、8店舗の改装を実施するなど、集客力の強化を図りました。

このほか、当社における新たな収益源の創出および環境負荷の低減に向けた取組みとして、喜多見地区において「再生可能エネルギー固定価格買取制度」を活用した太陽光発電事業を開始いたしました。

# 連結財務諸表(要約)

## 連結貸借対照表

2014年3月31日現在

(単位:百万円)

	当連結会計年度 (2013年度)	前連結会計年度 (2012年度)
<b>1</b> >>> <資産の部>		
流動資産	137,692	130,849
固定資産	1,106,652	1,133,651
<b>資産合計</b>	<b>1,244,344</b>	<b>1,264,501</b>
<b>2</b> >>> <負債の部>		
流動負債	365,820	399,475
固定負債	606,250	610,080
特別法上の準備金	4,700	9,400
<b>負債合計</b>	<b>976,770</b>	<b>1,018,956</b>
<b>3</b> >>> <純資産の部>		
<b>株主資本</b>	<b>238,683</b>	<b>220,940</b>
資本金	60,359	60,359
資本剰余金	58,540	58,548
利益剰余金	129,929	111,935
自己株式	△10,145	△9,903
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>25,544</b>	<b>21,554</b>
その他有価証券評価差額金	24,559	22,173
土地再評価差額金	633	△618
退職給付に係る調整累計額	351	—
<b>少数株主持分</b>	<b>3,345</b>	<b>3,051</b>
<b>純資産合計</b>	<b>267,573</b>	<b>245,545</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>1,244,344</b>	<b>1,264,501</b>

※記載の金額については、単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 連結損益計算書

2013年4月1日から2014年3月31日まで

(単位:百万円)

	当連結会計年度 (2013年度)	前連結会計年度 (2012年度)
<b>営業収益</b>	<b>523,187</b>	<b>515,223</b>
営業費	473,810	471,104
<b>営業利益</b>	<b>49,377</b>	<b>44,119</b>
営業外収益	4,190	4,096
営業外費用	11,506	11,850
<b>経常利益</b>	<b>42,061</b>	<b>36,365</b>
特別利益	9,217	60,673
特別損失	12,276	66,719
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>39,003</b>	<b>30,319</b>
法人税、住民税及び事業税	15,433	14,676
法人税等調整額	△1,795	△4,413
少数株主損益調整前当期純利益	25,365	20,056
少数株主利益	316	381
<b>当期純利益</b>	<b>25,048</b>	<b>19,674</b>

※記載の金額については、単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

2013年4月1日から2014年3月31日まで

(単位:百万円)

	当連結会計年度 (2013年度)	前連結会計年度 (2012年度)
<b>4</b> 営業活動によるキャッシュ・フロー	<b>73,638</b>	<b>71,483</b>
税金等調整前当期純利益	39,003	30,319
減価償却費	48,651	50,424
その他	△14,017	△9,261
<b>5</b> 投資活動によるキャッシュ・フロー	<b>△23,050</b>	<b>△34,748</b>
有形固定資産の取得による支出	△49,666	△57,592
その他	26,616	22,843
<b>6</b> 財務活動によるキャッシュ・フロー	<b>△50,052</b>	<b>△37,771</b>
有利子負債の増減額	△43,553	△31,823
配当金の支払額	△5,781	△5,418
その他	△717	△528
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額	534	△1,036
現金及び現金同等物の期首残高	29,860	30,897
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	42	—
現金及び現金同等物の期末残高	30,438	29,860

※記載の金額については、単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

### 1 資産の部

固定資産における減価償却が進んだことなどにより、201億5千7百万円減少いたしました。

### 2 負債の部

社債の償還などにより、421億8千5百万円減少いたしました。

### 3 純資産の部

当期純利益の計上により、利益剰余金が増加したことなどから、220億2千8百万円増加いたしました。

### 4 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益390億3百万円に減価償却費や法人税等の支払額などを加減した結果、736億3千8百万円の資金収入となりました。

### 5 投資活動によるキャッシュ・フロー

設備投資の進捗などにより、230億5千万円の資金支出となりました。

### 6 財務活動によるキャッシュ・フロー

社債の償還などにより、500億5千2百万円の資金支出となりました。

## 連結株主資本等変動計算書

2013年4月1日から2014年3月31日まで

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	60,359	58,548	111,935	△ 9,903	220,940	22,173	△ 618	—	21,554	3,051	245,545
当期変動額											
剰余金の配当			△ 5,802		△ 5,802						△ 5,802
当期純利益			25,048		25,048						25,048
土地再評価差額金の取崩			△ 1,252		△ 1,252						△ 1,252
自己株式の取得				△ 250	△ 250						△ 250
自己株式の処分		△ 8		9	0						0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						2,386	1,252	351	3,990	293	4,284
当期変動額合計	—	△ 8	17,993	△ 241	17,743	2,386	1,252	351	3,990	293	22,028
当期末残高	60,359	58,540	129,929	△ 10,145	238,683	24,559	633	351	25,544	3,345	267,573

※記載の金額については、単位未満の端数を切り捨てて表示しております。



## 株主さまアンケート 結果のご報告

昨年12月に実施させていただきましたアンケートにつきましては、10,000名を超える株主の皆さまからご回答をいただきました。非常に多くのご意見・ご感想をいただきましたことを、この場をお借りして心より御礼申し上げます。ここではその一部をご紹介します。

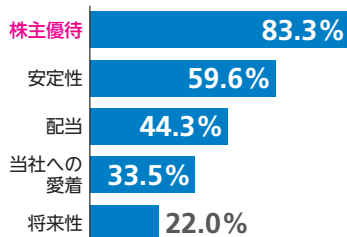
### 株式について

当社株式の保有理由については、「株主優待」とお答えいただいた方が8割を超え、当社株主優待への関心の高さがうかがえました。更に、第2位以降の回答からは、当社事業の安定性への期待や、事業内容への信頼・関心の高さもうかがえました。

当社株式の保有方針については、「保有し続けたい」とご回答いただいた方が7割を超え、第2位には「買い増ししたい」とのご回答が続ききました。今後も当社株式を継続保有・買い増ししていただけるよう、更なるサービス・魅力向上に努めてまいります。

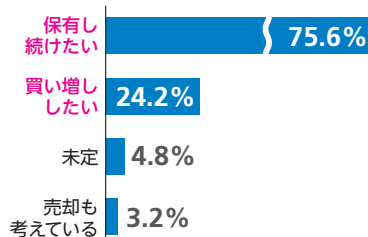
### Q1

当社株式を保有されている理由は何ですか？



### Q2

今後、当社株式についてどのような方針をお持ちですか？



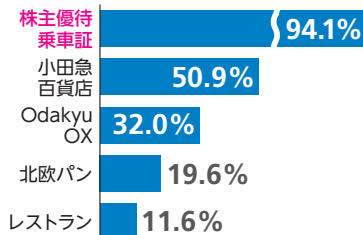
### 株主優待について

当社株主優待については、よく利用するものとして「株主優待乗車証」を挙げた方が9割を超えるとともに、株主優待の満足度についても半数以上の方に「満足している」とご回答いただきました。

今回いただいたご意見を参考にしながら、さまざまな株主優待制度の内容充実を検討してまいります。

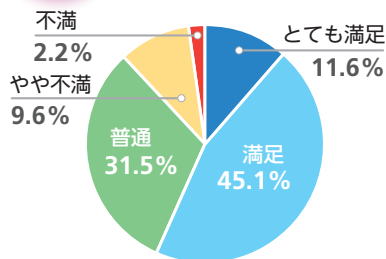
### Q3

現在の株主優待のうち、よくご利用になるものは何ですか？



### Q4

現在の株主優待に対する満足度は？



### ご意見・ご要望

#### ご満足コメント

- 優待乗車証をよく利用して出かけるので、たいへん便利です。
- 小田急は、安定感があり、将来性も高いので今後も株式を保有し続けたい。
- 箱根で色々な割引を受けられるので、持ち続けたい。

#### ご要望コメント

- 優待乗車証の枚数を増やしてほしい。
- 長期保有優待を考慮してほしい。
- 株主優待冊子について、共通券式にしてほしい。

【アンケートについて】ご回答いただきました内容は、今後のIR活動や経営の参考とする目的以外に使用されることはありません。



優待乗車証と優待割引券はお手元に届いたときからご利用いただけます。

## 株主優待制度のご案内

毎年3月31日および9月30日現在の1,000株以上ご所有の株主さまに、半期に1回所有株式数に応じた優待乗車証のほか、小田急グループ200以上の店舗・施設でご利用いただける優待割引券をお送りいたします。

### 株主優待乗車証

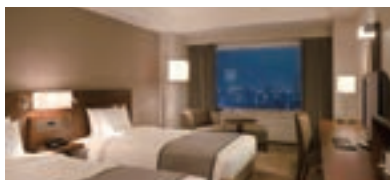


ご所有株式数	乗車証の種類	枚数(半期)
60,000株以上	小田急線全線および小田急バス全線 共通優待乗車証(定期券式)	1枚
	小田急線全線優待乗車証 (回数券式、1枚1乗車有効)	30枚
30,000株以上 60,000株未満	小田急線全線優待乗車証(定期券式)	1枚
	小田急線全線優待乗車証 (回数券式、1枚1乗車有効)	30枚
20,000株以上 30,000株未満	小田急線全線優待乗車証 (回数券式、1枚1乗車有効)	80枚
10,000株以上 20,000株未満		40枚
5,000株以上 10,000株未満		20枚
3,000株以上 5,000株未満		10枚
1,000株以上 3,000株未満		3枚

### そのほかの各種ご優待例



小田急百貨店、Odakyu OX  
お買物割引券



小田急グループホテル  
宿泊割引券、レストラン・バー割引券



箱根湯寮ほか  
レジャー施設各種割引券

※掲載している株主優待制度は一例です。株主優待制度の詳細に関しては、当社ホームページ「株主の皆さまへ」をご覧ください。

### 30,000株以上の株主さまの特典



※一部割引除外となる場合がございます。 ※優待の内容については、変更する場合がございます。

### 株主カレンダー

掲載の内容は2014年6月時点での予定です。

下旬 株主優待ご送付



# 株主インフォメーション

単元未満(1,000株未満)株式をご所有の株主さまへ

## ■ 単元未満株式買増・買取請求制度について

当社の株式は1単元が1,000株となっており、単元未満株式(1~999株)については市場で売買はできませんが、当社に対して1,000株(1単元)となるよう買増請求(購入)すること、または単元未満株式を当社に対して買取請求(売却)することができますので、ご案内申し上げます。

### 買増・買取請求制度の例



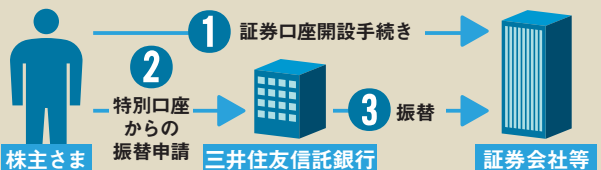
証券会社等に口座をお持ちでない株主さまへ

## ■ 特別口座からの振替えについて

現在、証券会社等に口座をお持ちでない株主さまの株式は、当社が三井住友信託銀行に開設した「特別口座」に登録されています。特別口座に登録された株式に関しましては、そのままでは**売買や譲渡等ができないなどの制約があります**ので、ご本人名義の証券会社等の口座への振替えをご検討くださいますようお願い申し上げます。

### 特別口座から証券会社等の 口座への振替申請のお手続き

特別口座から証券会社等の口座への振替を申請することで株式の売買等ができるようになるメリットがあります



お問い合わせ先

- 証券会社等の口座に単元未満株式の登録がある株主さま ▶ 株主さまの口座のある証券会社等
- 特別口座に株式の登録がある株主さま ▶ 三井住友信託銀行 証券代行部 ☎ 0120-782-031

## ■ 上場株式等の配当等に係る10%(所得税7%住民税3%)軽減税率の廃止について

2014年1月1日から上場株式等の配当等に係る10%軽減税率(所得税7%、住民税3%)は廃止され、本来の税率である20%(所得税15%、住民税5%)となりました。また、2013年1月1日から2037年12月31日までの間(25年間)は、「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が施行されており、その所得税額に対して2.1%が「復興特別所得税」として課税されています。そのため、株式等の配当等もその源泉所得税を徴収する際に「復興特別所得税」が併せて徴収されています。

### 〈上場株式等の配当等に係る源泉徴収税率について〉

配当等の支払開始日	2014年1月1日~2037年12月31日	2038年1月1日~
上場株式等の配当等の税率	20.315% [内訳] 所得税(15%)・住民税(5%) + 復興特別所得税(0.315%)*	20% [内訳] 所得税(15%) 住民税(5%)

\*15% × 復興特別所得税率2.1% = 0.315%  
(上記は、2014年1月時点の情報をもとに作成しています。)

●上記は、上場株式等の配当に係る復興特別所得税について、一般的な情報をご提供するものであり、この内容が当てはまらない場合もございます。詳細につきましては、最寄りの税務署、税理士等にお問い合わせください。

## 会社概要

設立	1948年6月1日 (前身の小田原急行鉄道は1923年5月1日設立)
本社事務所	東京都新宿区西新宿一丁目8番3号
資本金	603億5千9百万円
発行済株式の総数	736,995,435株
株主数	56,526名 (前期末比 1,457名減)
事業内容	鉄道事業、不動産業、その他事業
従業員数	3,628名

## 役員 (2014年6月27日現在)

代表取締役 執行役員 取締役会長	大須賀 頼彦	常勤監査役	早野 実
代表取締役 執行役員 取締役社長	山木 利満	常勤監査役	高原 俊二
専務取締役 執行役員	荒井 一義	監査役	宇野 郁夫
専務取締役 執行役員	金田 収	監査役	深澤 武久
専務取締役 執行役員	小川 三木夫	監査役	伊東 正孝
常務取締役 執行役員	星野 晃司		
常務取締役 執行役員	金子 一郎	執行役員	五十嵐 秀
取締役 執行役員	抱山 洋之	執行役員	荒川 勇
取締役	森田 富治郎	執行役員	端山 貴史
取締役	朝日 康之	執行役員	菅澤 一郎
取締役	藤波 教信	執行役員	黒田 聡
取締役	天野 泉	執行役員	立山 昭憲
取締役	下岡 祥彦		
取締役	小柳 淳		

## 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月下旬
同総会議決権行使 株主確定日	3月31日
配当金受領 株主確定日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
事務取扱場所 (郵便物送付先) (電話お問い合わせ先)	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-782-031 (フリーダイヤル)

公告の方法 電子公告により行う。  
ホームページアドレス <http://www.odakyu.jp/ir/koukoku/index.html>



### ホームページのご案内

当社ホームページでは、最新のニュースやIR情報、サービス情報など当社をご理解いただくための様々な情報を提供しております。

小田急

検索

[www.odakyu.jp/](http://www.odakyu.jp/)

小田急沿線の身近な自然散策道のご紹介

小田急沿線

# 自然ふれあい歩道

鵜沼海岸駅～藤沢本町駅コース (4.5km)

## 引地川沿いの緑と由緒ある寺社を巡って

相模川低地に位置し、相模原台地の南に広がる砂丘帯を流下する引地川の下流部を歩くコースです。このコース一帯は、かつては海に覆われており、海岸線が次第に後退するに従って、海岸線と平行した砂丘列を残しながら形成された沖積平野で、湘南砂丘帯と称されています。川沿いの緑道や植物園、社寺の緑など身近な自然と出会うことができます。

**自然ふれあい歩道とは：**「小田急沿線自然ふれあい歩道」には、小田急線の駅(全70駅)を起・終点とする手軽な散策道が70コースあります。その選定を2001年から進めてきましたが、2008年秋、70コース全てが完成いたしました。沿線には、身近にありながら、あまり知られていない魅力的な自然資源や文化財が数多くあります。小田急は、これらの見所を、沿線にお住まいの多くの皆さまに気軽に楽しんでもらうよう、快適な散歩コースにまとめています。ホームページには、各コースの紹介とともに、コースを巡回している自然情報提供員から報告される旬の情報を随時掲載しています。詳しくは、**小田急沿線自然ふれあい歩道のホームページをご覧ください。**

<http://www.odakyu.jp/walk/>

## 長久保公園都市緑化植物園



広いスペースに季節の草花がたくさん植えてある花のプロムナード、溪流広場、スイレンの池や和風庭園、江の島を見渡せる展望広場、広い芝生広場などがあり、市民の憩いの場になっています。ここにはトイレがあります。

### インフォメーション

●開園時間：8：30～17：00 ●休園日：月曜と祝日の翌日  
(月曜が祝日の場合は開園) ●電話：0466-34-8422

## 引地川緑道の 身近な草木

引地川両岸にある緑道には、さまざまな樹木が植えられています。海岸に近いことからクロマツが多く植えられています。サクラやフジ、ガクアジサイなど花のきれいな樹木も多く、歩く人々の目を楽しませてくれます。

## 水辺の植物

引地川の河原には、一般に水辺でよく見かけるオニグルミ<sup>※1</sup>やタチヤナギ<sup>※2</sup>などの樹木が生育しています。オニグルミは日本在来種のクルミの木で、秋に実がなります。

ヤナギの仲間は、雌雄異株と言って雄木と雌木があります。

※1：オニグルミ：クルミ科の落葉高木／葉は大型の奇数羽状複葉／4月ごろ緑色の雄花穂が尾状に垂れ下がる／果実は球形で固い

※2：タチヤナギ：ヤナギ科の落葉小低木／日当たりの良い湿地や川岸に生える／マッチの軸木に利用／木の姿が立ち上がったように見えるので、この名がついた

## 烏森皇大神宮 (沼皇大神宮)



832年に社殿造立の記録があり、樹齢数百年のイチヨウ、タブ、ケヤキなどの大木があります。8月17日の例祭には、源義経、徳川家康、日本武尊などの盛装した人形山車9基が出て、祭を盛り上げます。